

／ご当地マドンナとゆく／

日本全国

ゆるり

アウトドア旅

第31回 福島県

2時間足らずで山頂へ 登山者に人気の 安達太良山を登る

日本百名山のひとつにも数えられている安達太良山。標高1,700mながら、ロープウェイを利用すれば、山頂までの登りは2時間とかからない。今回は安達太良登山へと向かう。



今回のマドンナ

丸田陽加里さん

二本松市地域おこし協力隊に3年間従事し、主に岳温泉のPRに力を注いだ。今は、市内の地域振興とデザインに携わる会社に勤務。個人でも企画宣伝など幅広く活動中。

写真提供 / 岳温泉観光協会

今回の旅先は…… 福島県二本松市!

福島県の中央部に位置。西に安達太良連峰、東に阿武隈山系を望む。安達太良山に源泉を持つ、麓の岳温泉は1200年の歴史を持つ。岳温泉を含む山麓一帯の「あだたら高原」は酪農も盛んだ。



「汽車の窓から左手にあざやかにこの山が眺められる。雪のある時には、その姿は一層立派に私たちの眼に迫ってくる」
と、深田久弥は著書『日本百名山』の中で、こう評している。その安達太良山に魅せられたのが、今回のマドンナ、丸田陽加里さんだ。丸田さんは就職と同時に福島県へ転勤、製造関連の仕事に携わっていたが少々心がくたびれてしまったことがあった。「見かねた友人が気晴らしに山でも行こうと、安達太良山に誘ってくれたんです。えー山？」と乗り気ではなかったんですが、びっくりするほどの絶景を見て、こんな景色に意外にもすぐ出合えてしまふんだと感激しました」
以来、丸田さんは幾度となく安達太良山に登っている。標高は1700mある山だが、麓からはロープウェイが運行しており、山頂までは2時間とかからない。「すぐ出合え」というのはそうした意味もある。じつは撮影日の数日前にも来訪した友人と登りに来ていたという丸田さんに案内人も兼ねてもらい、山頂を目指すことにした。
山頂からまずは歩いて約5分の薬師岳展望台へ。ここまでは行楽客の姿も多い。安達太良山山頂、二本松市を一望できる。「地元の人には乳首山と呼んでいるんですよ。出先から二本松に帰ると、安達太良山が見えて、



今日はとても涼しいですね 快調です



↑コバギボウシ、イワオトギリなどの花が咲いていた(8月11日撮影)。数千キロ移動する渡り蝶アサギマダラの姿は見られず。



↑山麓駅からロープウェイに乗って10分の空中散歩で標高1,350mへ。あだたらロープウェイは、大人片道1,050円、往復1,750円。

乾いた風に撫でられながら ゆっくりと山頂を目指す

→↓山頂付近に近づくと、雲が空を覆い尽くしてしまった! 山頂は、岩峰が突き出した狭い所。登り下りは慎重に一方通行で。

無事に登頂! ひゃ〜 なんにも見えない



↑山頂直下から二本松市を望む。牛ノ背を歩き沼ノ平へ向かう。



あ〜冷たい おいしい!

↑この日は風があり、登りでも汗をあまりかくことなく、足どりも軽やか。山頂駅から歩いて1時間、だいぶ山頂が近づいてきた。

→山に行く際、魔法瓶にはいつも冷たい水を入れていくという丸田さん。「二本松は、水がおいしいんですよ!」



これが 見たかった〜

丸田さん撮影の沼ノ平

旅の MEMO

ゴムを爪楊枝でひと刺しすると丸い豆腐が出てくる。大豆の香り豊かで柔らかい。同店には厚揚げなど多数。

ぷるんとまんまるが愛らしい



玉豆腐 365円(5個入り)

渡辺豆腐店
 ②二本松市岳温泉1-113
 ☎0243(24)2711
 ⑨9:00~17:00
 ⑩不定休

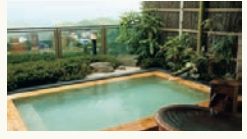
カステラ生地に自家製の餡が詰まった「くろがね焼」。小判型で山の行動食としてもイチオシ。甘さが染みわたる。

山の上で、おひとついかが?



岳温泉 玉川屋
 ②二本松市岳温泉1-13
 ☎0243(24)2510
 ⑨8:00~18:00
 ⑩不定休

山登りの汗を流す、絶景温泉!



高台の同宿は、源泉掛け流しで眺望抜群の露天が自慢。全身の疲れを癒やしてくれる。

ながめの館 光雲閣
 ②二本松市岳温泉1-85
 ☎0243(24)2101
 ⑨日帰り入浴 11:00~14:30
 ⑩大人¥750、3歳~小学生¥550
 日帰り入浴貸切パック 50分¥3,000も有り。



丸田さんも苦笑い。しかし山登りの愉しさと達成感に変わりはなかった。

「いや〜、安達太良あるあるですわ〜。下りてきたら晴れたりして」

「あ〜帰ってきたな〜と感じます」と、丸田さんはうれしそうに山頂に目をやった。風が強いことが多いそうだが、この日も雲は忙しない。風のお陰で涼しく快適な道りとなった。展望台からしばらくは木道が続き、鮮やかな紫色のコバギボウシが我々一行を出迎えてくれた。

1時間もすると、森林限界を超え、山頂付近が見えてくる。青天に岩峰が眩しい。山頂からの展望に期待大、丸田さんがお気に入りだという沼ノ平も見渡せるはず。途中休憩を取り、さらに高みを目指そうとした途端雲が湧いてきた。そして、霧の中での山頂到達。沼ノ平もお隠れ遊ばされていた。後ろ髪を引かれつつも山頂を後にする。下山中、振り返るとくつきり山頂が見えている(泣)!

ホットもアイスも飲みたい 山専用ボトル2本使いのススメ

夏から秋へ向かうこの季節。寒暖の差が大きくなり、冷たいものも温かいものも両方欲しくなってしまう。山歩きならばなおさら。そこでオススメしたいのが、2本使いだ。



高い保温力と保冷力！
登山愛好者には
欠かせないアイテム



ステンレスボトル／
FFX-501 6,050円

2007年の登場以降、登山愛好者などを中心に高い人気を誇る「山専用ボトル」。6時間経過後も77度C以上(保温力)、10度C以下(保冷力)というハイパフォーマンスで、厳しい山岳環境での活動を支える。季節を問わず、いつでも傍らに置きたい。



ボトルポーチ／FFX-501Pouch 1,980円

実は山専用ボトル愛用者の丸田さん。「専用ポーチがあるんですね！ザックから取り出しやすいし、これならボトルに傷も付かなくていいですね」と、すっかりお気に入りの様子。



コップ部分の手馴染みの良さ、滑りにくいボデイリングなど細部まで山岳環境を考慮。手袋装着時も扱いやすい。



シリコン製のボデイリングとソコカバーは取りはずし可能。使用状況に応じ、はずして軽量化することもできる。



家庭用製氷機で作った氷がそのまま入る設計だ。冷たいものは、いつまでもキンキンの状態。暑い日には至高の一杯に！



休憩時にコーヒーをドリップで。湯は熱いままなので、そのまま注ぐ。ボトルにお湯を入れ、内側を余熱しておくとう効果的。

沸かし直し不要のアツアツ
氷はランコロンそのまま